平成26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4570300634		
法人名	株式会社　悠隆		
事業所名	グループホーム「ととろの杜」	ユニット名	A棟
所在地	宮崎県延岡市土々呂町5丁目2565－1		
自己評価作成日	平成26年6月19日	評価結果市町村受理日	平成26年8月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/45/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&JigyosyoCd=4570300634-00&PrefCd=45&VersionCd=022

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	平成26年7月11日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

当ホームは、豊かな緑に囲まれた高台の住宅街にあります。近くの道路は、地域の方たちの散歩コースにもなっており、ホールの広い窓からは人々の行き来、車の往来、電車の通過などを近くに感じることができます。主な行事として、夏祭りや家族との忘年会、幼稚園児の交流会などを通し、ご家族や地域の方との交流も大切にしています。また、介護職員初任者研修や介護福祉コース（高等学校）の実習など、積極的な実習生の受け入れを行っています。
職員間の関係性とチームワークもよく、ゆとりが感じられるホームとなっています。理念として「心にゆとりをもって”あなたのまま”を支えます」を掲げ、各ユニットで行動目標を作成し、1年間取り組んでいきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

法人は、市内数か所の介護関連の複合施設を運営し、本人や家族の希望、状態の変化に応じた受け入れが可能である。職員の研修、キャリアパスの導入により、職員の意欲も高く、質の高い介護を提供する目標を設定し行動している。ホームの理念を新たに作り、職員全員が理念に基づく介護を提供しており、チームワークの良さが感じられる。運営推進会議の意見を積極的に運営に取り入れたり、地域との連携を大切にし、地域の行事への参加やホーム行事への呼びかけ等交流に努めている。介護系学生の実習受け入れも行っており、全てが「利用者のために」、更なる向上をめざしているホームである。

Ⅴ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）		1. ほぼ全ての利用者の
		○	2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項　目	自己評価 A棟 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員室や台所の入り口に、サービス理念、ホームの理念と共に、ユニットの行動目標を掲げ、職員間で周知できるようにし、1年間取り組む事としている。	既存の理念を、職員が同じ解釈で認識・実践するために再構築が必要との結果、昨年、「心にゆとりをもって”あなたのまま”を支えます」を掲げ、ユニットごとの行動目標に沿って、日々実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	幼稚園と定期的に交流会を行ったり、地元の商店から食材を仕入れたりしている。また、近隣への散歩時には挨拶を交わしたり、会話をする等、コミュニケーションも図っている。	地域との連携は法人の目標でもあり、地域の行事にホームとして参加している。また、ホーム主催の夕涼み会に、地域の方達を招待したり、幼稚園児やボランティアの来訪、介護等の実習受け入れなど、地域との交流が行われている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学者や訪問者へホームを案内したり、グループホームについての説明を行っている。また、家族からの相談にも助言を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヵ月に一度、定期的に開催し、入居者状況・行事活動・健康管理面・職員状況・事故報告等を行い、意見や助言をいただいている。意見や助言は朝礼で直接伝え、会議内容は議事録を作成し、全職員に回覧している。	推進会議では各報告に対し、転倒事故防止への対策や献立の工夫の必要性、環境美化やレクリエーション、防災対策など、指摘や意見、助言が活発に出され、管理者や職員は、サービス向上に向けて話し合い、実践している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	定期的に推進会議に参加していただいている為、その中でホームの取り組み等を伝えている。また、電話による相談や訪問の機会も多く、密に関わりをもっている。	面談、電話、推進会議の時など、必要時にタイムリーな方法で、双方向的な連携が図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除の理念及び方針を掲げ、身体拘束は行っていない。しかし、ホームが2階に位置している為、転落事故や失踪の恐れがある為、玄関の施錠を家族の了解を得た上で行っている。ただし、職員の目が届く際は、ドアを開放している。	全職員は、拘束の理解及び拘束をしないケアを実践している。唯一、拘束となる玄関の施錠について、不穏状態が少ない午前中の開錠と外出したがる傾向の強い方がいるユニットにドアベルを付けて開放している。開錠により、職員自身も解放感を意識したとの意見であった。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修や勉強会の中で、どのような内容の事象が虐待に繋がるのかを学ぶ機会を定期的に設けている。また、議事録を作成し、研修に参加していない職員へも周知できるようにし、防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価 A棟 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を利用していた方もおり、後見人と直接関わる機会もあった。また、家族から制度利用の相談を受けたりもしている。勉強会や研修会で学ぶ機会があり、制度の理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書、重要事項説明書を読みながら、不明な点等を確認し説明をしている。入居後にも不安や疑問点があれば、随時、説明を行い理解を得ている。		
10	（6）	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に一回の家族会や推進会議で、ご家族から意見を頂いている。また、来訪時や電話連絡を利用して、些細な事までも意見や要望を出して頂けるよう配慮している。	家族会や来訪時、電話など、家族が声を出しやすいように努めている。居室のベッド下のほこりの指摘を受け、掃除の回数を毎日1回から2回行うこととなった。現在、回数を増やすばかりでなく、掃除方法や掃除道具を改善することを検討している。	
11	（7）	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議やユニット会議で定期的に意見を聞く機会を設け、その場で話し合いを行っている。その他に、個人面談を行い、個々の意見や提案の聞き取りを行っている。	職員の年齢構成や経験度などバランスがよく、和やかな雰囲気の中、活発な意見を出し合っている。法人では、人事考課を導入予定であり、個人面談による個別の意見をくみ取り、利用者の力も生かしながら、季節の材料による保存食づくりに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス導入によって、どのようなポスト・仕事があり、そのポスト・仕事に就くためにはどのような能力・資格・経験等が必要かを定め、それに応じた給与水準を定めている。扶養手当や資格手当により、各自、向上心を持って働く事が出来ている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間教育研修計画により、職種・階層別専門研修、管理者研修、法人内・外研修等が予定されており、多くの職員が研修を受ける機会が確保されている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	集合研修やグループホーム連絡協議会の主催する研修で、グループワーク等を通して交流を深めている。ネットワーク作りや相互訪問等の活動は、今後の課題である。		

自己	外部	項　目	自己評価　A棟 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接で、何気ない会話や様子の中から聞き取りや洞察を行っている。また、笑顔や口調に配慮しながら、安心感が与えられるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前から密な連絡をとり、不安や困りごとに対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	調査の時点で困り事や要望、身体状況等を把握し、ホームでの生活が困難と思われる場合は、他のサービスを紹介している。サービス計画を短期間で区切り、見直すことにより、本人や家族の「その時」の希望に近づけられるよう支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	簡単な掃除や洗濯物畳み、洗濯物干し、野菜の皮むき、料理の盛り付け、味見、花の水やり、草抜き、一緒にのんびりテレビをみたり、食事を摂るなどしている。今年は梅干し漬けにも挑戦している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来訪時や電話連絡の際に、ご家族との情報交換を行い、ご利用者の抱えている問題や悩みを共に考えていただきながら、ご家族とご利用者の中間の立場で支援できるよう努めている。		
20	（8）	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷めぐりにて、自宅周辺のドライブや馴染みの美容室へ出掛けている。知人や友人の面会もある。	盆や正月の外出泊、友人、知人の来訪なども個人差があり、疎遠にならない支援に努めている。ホームで準備したハガキを、家族に依頼し、家族から本人あてに出してもらい、手紙による交流の効果を考えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性を把握し、その時々の表情や様子に応じて、間に入る等している。また、座席位置への配慮等を行い、個々の距離感をつくっている。		

自己	外部	項　目	自己評価　A棟 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	同建物内の有料老人ホームへの転居が多い為、退去後の本人やご家族の状況を把握しやすく、関係性を継続することができる。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	（9）	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の様子や会話の中から意向を聴き取り、本人のペースで過ごせるよう配慮している。テレビを見たり、花への水やりやお喋りをし各々過ごされている。また、困難な場合には、表情や仕草から思いを感じ取れるよう努めている。	理念である「あなたのまま」を把握するために、個々の職員が、会話や表情、動作から感じたことを、カンファレンス等で職員は共有するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の訪問調査時から情報収集し、入居後の生活の様子や会話の内容からも新たな情報を得ている。ご家族の面会時には、不足している情報をお尋ねしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護日誌に状態を記録し、１日３回の申し送りを行う事で現状の把握を行っている。また、担当制にすることで、日頃から担当者が中心となり、把握に努めている。定期的にホーム長による巡回も行っている。		
26	（10）	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族・職員から情報収集し、それを基にサービス担当者会議で意見交換しながら、介護計画を作成している。本人の意向が聞けない場合には、本人の視点に立ち、必要としているサービスを検討した上で作成している。	日々の本人の思いを各職員が出し合い、集約したものが、意向に沿った介護計画になるよう、家族や職員は意見交換をしている。モニタリングや計画の見直しは、随時又は定期的に実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿って一日の様子を個人記録に記入し、情報を共有している。また、健康チェックや排泄チェックの記録も考慮し、必要であれば介護計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じてデイケアや訪問歯科を利用している。歩行困難な方の外出時には、福祉タクシーを利用している。また、本人やご家族のニーズによって、他のサービスを紹介している。		

自己	外部	項　目	自己評価 A棟 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の商店に食材を注文している。希望時には近くの美容室へ行っている。デイケアを利用している方もいる。消防職員による火災についての講話や年2回の避難訓練の指導など、協力を得ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医を受診し、スムーズな受診が出来るよう、ご家族や担当医へ情報提供をしている。また、ホームの担当医は週二回訪問している為、密な関わりをもっている。緊急的な受診の際には、ご家族と職員で付き添い受診している。	家族同伴受診、訪問診療、訪問歯科診療があるので、それぞれの希望の方法で治療が継続できるよう、情報提供を密に支援している。夜間緊急時は、法人の医療機関の当番医や看護師が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内看護師は、身体の状態把握に努め、夜間や休日でもTELにて相談し、指示をあおいでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中、担当看護師と情報交換し、ご家族や病院関係者と共に退院に向けた話し合いを行っている。退院時にも、今後の生活のあり方について話し合い、受け入れ態勢を整えられるよう努めている。受け入れが困難な場合は、他のサービスを紹介し、転居等の支援を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご利用者の状況に応じて、重度化した場合や終末期のあり方について、ご家族と主治医を交えた話し合いがなされている。主治医により看取りの診断が下りた際は、方針に基づき、希望する場所で看取りが行えるよう、連携機関の協力を得ながら支援を行っている。	ADLの低下や重度化した場合、ホームでの日常的な介護が困難で、家族の希望があれば、併設の施設に移ることが可能である。看取りの指針により、昨年、1例を経験し、医師、訪問看護師の協力もあり、職員の不安は少なく、本人が希望する場所で見送れたことの充実感を感じている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成しており、勉強会や県北ブロック協議会等の研修で学ぶ機会を設けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、火災を想定した避難訓練や夜間を想定した避難訓練を行っている。地元消防団や地域の住民とも日頃から関係を築き、協力を得ている。また、利用者と職員を含めた3日分の非常食を備蓄している。	火災予防のため、火を使わない、コンセント周辺の整備、また、3日分の備蓄がある。昼間と夜間を想定し、住民参加による火災避難訓練を実施している。自然災害に対する対策が、今後の課題である。隣接する崖に、小規模だが土砂崩れがあり、安全対策が必要と考える。	丘陵部を鋭角に削った断面には、崩土部分や薄い表層土が見られ、多い雨量時は、頂上から滝のように流水するとのことである。行政機関の専門的な調査等により、関係者による対策をお願いしたい。

自己	外部	項　目	自己評価 A棟 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入室時には、ノックと声掛けを行うようにしている。介助する際には、細かい声掛けを行い、その人に合った声のトーンや話し方をするよう配慮している。	職員の研修で、人格の尊重やプライバシーの保護については理解し、行動や声、表情に配慮している。情報の提供の必要性と同意も併せて理解するようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が答えやすいよう問いかけをし、選択肢を提示することで、自己決定を支援している。また、意思表示が困難な場合は、普段と違った様子や表情から思いを汲み取り、その時々の希望や好みを把握する事で、自己決定に近づけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員のペースになってしまったり、集団行動を勧めてしまったりすることがあるが、テレビを見ている人は、番組や音量を確認したり、手伝いが好きな方には、皮むきや掃除を手伝ってもらったり、一人ひとりの希望にそった過ごし方を支援してる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の希望する理髪店や美容室を利用している。鏡をみながら髪を整えてもらったり、好みの洋服を選択して頂けるよう支援している。さらに外出時には、自分で化粧をされる方もいる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者の状況に合わせた食事形態（お粥・刻み等）にしたり、食器の変更やお弁当箱の使用、出前、リクエストメニュー等の工夫を重ねている。食事の準備や片付けは、一緒に出来る方のみであるが、毎食、職員と共に食事をしている。	職員が、1か月単位の大まかな献立を作成している。行事食、誕生会、外食や出前、利用者のリクエストやご飯の硬さの好みを取り入れ、柔軟に変化を持たせている。個々の力量に応じて、職員と一緒に食事作りに参加し、職員も同じ食卓を囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表により、食事摂取量や水分量を把握している。摂取量が減少している時には、好みのお菓子や飲み物等で補っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声かけ・誘導を行っている。困難な方は介助にて清潔保持に努めている。口腔ケア後は個人記録にチェックしている。義歯のある方は、週1回のポリデントを行い、清潔保持に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価　A棟 実践状況	外部評価 実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレにて排泄を行っている（夜間のみPトイレ利用する方もいる）。尿意・便意が曖昧な方については、排泄チェックをしながら、声掛け・誘導・一部介助を行っている。場所が分からない方には、行動・動作をみながらトイレへ案内をしている。	おむつから、紙パンツ、布パンツを使用した排せつの自立を目指し、一人ひとりの状態に応じた個別支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や軽い運動、腹部マッサージを行ったり、食事のメニューに繊維の多い食材を取り入れたりしてる。さらに、水分補給時には乳飲料を取り入れる等の工夫を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員の都合で週5日間、午後からの入浴となってしまっているが、その中で、一人ひとりの希望やタイミングをみながら、定期的に入浴できるよう支援している。体調不良等で入れない方は、清拭や部分浴、着替え等の声掛け・介助を行っている。	おおむね週2回の入浴である。個浴にしては大きすぎる浴槽で、縁が幅広でまたぎにくく、深い構造のため、入浴や介助のしづらさがある。回転台や二重浴槽、足台、底板の使用を検討している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	状況に応じて、居室で職員と共に過ごしたり、好みの飲み物でリラックスしていただく等、安眠できるよう支援している。日中、ソファー等でうとうとしている際には、ひざ掛け等をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全てのご利用者の服薬管理をしており、処方された薬は、薬情報と内容が間違っていないかを確認している。変更があった時は、状態変化等をチェックしている。効能や副作用については、薬情報の記載で確認することができる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	折り紙や畑いじり等の趣味、家事等を勧めながら、これらを通して役割や楽しみとなるよう支援している。コーヒーや氷砂糖等の個人の嗜好品も、家族に用意して頂いている。また、散歩等の外出や季節行事等により、気分転換をはかっている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近場への散歩や故郷巡りでのドライブ、ユニット全体行事でマイクロバスを借りてのドライブ等を計画している。当日の希望には添えない場合が多いが、近日中に日程を立てるよう努めている。数名ではあるが、ご家族との外出や外食を楽しまれる方もおられる。	散歩、買い物の外出のほか、少人数やユニット全員でのドライブを計画的に実施している。突発的な希望する日の外出支援に添えない場合は、日程変更することを説明し、了解をとり、実施できるよう努めている。家族の協力を依頼することもあり、できる限り希望に沿った外出支援に努めている。	

自己	外部	項　目	自己評価 A棟 実践状況	外部評価 実践状況	外部評価 次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個別に財布を預かっており、使用する際は、使用目的や金額等を家族に相談した上で使用している。使用した際は、出納帳へ記載し、面会の際などに家族へ確認して頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には電話を取り次ぎし、居室で会話していただけるよう、プライバシーにも配慮している。手紙は自由に書いていただき、郵送のみ支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアにはソファーを置き、ご利用者同士が会話したり、ゆったりと過ごしていただけるようにしている。壁には季節毎の貼り絵や装飾を行っており、室温調整はこまめに行っている。日差しの強い日にはブラインドにて日光調整している。テレビの音量等にも注意を払っている。	左右の居室の廊下を、リビングと食堂に使用している。トイレ、洗面所、浴室はリビングからは直視できないが、同じ所にまとめてあり、間違うことや気兼ねすることなく使用できるよう配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	窓際に数人かけのソファーを置いたり、フロアと少し離れた場所に長椅子を置くことで、数人でも一人でも、思い思いに過ごせる空間づくりを行っている。フロアのテーブルや椅子も空いている時は自由に座って頂いている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家で使っていた布団や掛布団、鏡や置時計等、使い慣れた馴染みの物を持って来ていただくようご家族にお願いしている。それぞれが、個性のある居室の空間作りをされている。	ベッドとテーブル以外は、本人と家族で相談しながら、落ち着いて居心地良く過ごせる居室づくりを職員も一緒に考えている。椅子を置く部屋が多く、日中起きて過ごしており、読書や絵画、テレビを見るなど、プライベートを大事にした過ごし方ができるよう、職員は支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロア内に本や歌本があり、自分で持っていけるようにトイレには「便所」等、別の表記も行い、それぞれが分かる言葉で表示している。居室のドア前には名前を小さく表示しているが、分からない方は見やすい位置に目印をしている。		